

学術講演会のご案内

大学院文学研究科主催の学術講演会を、下記の通り開催いたします。
万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

演 題

**見える神様と見えない神様の魅力：
観光における『ナマハゲ』と『アエノコト』**

演 者

マイケル・D・フォスター 氏

(カリフォルニア大学デービス校・教授)

日時： 2023年3月4日(土)

14:00～16:00

場所： 3号館1階312教室

- *参加無料(どなたでもご参加頂けます)
- *講演自体は日本語で行いますが、質疑応答等は日本語・英語どちらでも結構です。
- *対面参加のほか、Zoomによるオンライン視聴も可能です。オンライン参加をご希望の場合は、成城大学HPの文学研究科ページより当日アクセスをお願いいたします。



祭などの年中行事は長年、観光資源として利用されてきた。この発表では「男鹿のナマハゲ」と「奥能登のアエノコト」の二つの例を通じて、民俗儀式に関する現在の観光の様子や意味合いを考察する。特に、観光客が抱く「見たい」気持ちはどのように生まれ、支えられているのか考えてみたい。また、写真を撮る衝動や行為はどのような役割を果たしているのだろうか？発表者はナマハゲといった目の前に現れる神様に関する行事を長年研究してきたが、去年より、神様が見えないアエノコトという行事を研究し始めた。これら二つの例を比較することによって、更に理論的な面や問題点などについて、考察を深めていきたい。「男鹿のナマハゲ」も「奥能登のあえのこと」もユネスコ無形文化遺産の「代表一覧表」に記載されたことにより、更に観光資源としての価値が高まった。このようなコンテキストにおいて、この二つの行事について考えてみたい。



「見えない神様の写真を撮る」(奥能登・2022年、演者撮影)